

鵜川流域懇談会（仮称）の目的・成果、運営について

目 的

情報ネットワークづくり(共有・発信)

住民と行政（など）が情報を共有するとともに、地域や広く全国に情報を発信することです。

協働の川づくり

住民と行政（など）が協働関係を築き、流域の視点から川づくりに取り組み、未来に鵜川を引き継ぐことです。

成 果

コミュニケーションを図り、鵜川を理解を深めます。

住民と行政（など）が、コミュニケーションを図りつつ情報を共有し、鵜川の自然の豊かさや力、歴史・文化などの理解を深め、一層の信頼関係を構築します。

それらの情報や、住民や行政（など）の活動などを、地域や広く全国に発信し、多くの人に鵜川の魅力を伝え、活動の輪を広げます。

意見を共有し、『未来の鵜川と川づくり』をまとめます。

自由な意見交換を行い、「未来に引き継ぐ鵜川の姿」を考えます。そのための流域の取り組み、住民や行政（など）の役割、協働体制など「協働の川づくり」を考えます。多くの意見を共有しつつ、『未来の鵜川と川づくり』をまとめます。

歴史・文化を尊重し、自然豊かな、安全安心の川づくりを進めます。

各主体が、懇談会で共有した意見、考え方を、川づくりに反映します。

鵜川の歴史・文化を尊重し、豊かな自然を保全し、住民の安全・安心を向上させる川づくりを進めます。

会議の進め方

様々な意見を出し合い、共有できるように会議を進めます。

様々な観点から自由に意見を出し合えるよう、またそれを共有できるよう、会議を進めていきます。全体討議、グループ討議、現地視察等を行っていく予定です。

より専門的な意見をきくためのアドバイザーによる勉強会、具体的な検討のための部会も検討します。

川の診断(モニタリング)を行うなど、より良い鵜川を目指します。

川づくりに対して、懇談会自身が継続して川の診断(モニタリング)を行い、より良い鵜川を目指します。懇談会は一定期間継続(まずは5年をめど)しつつ、地域の活動として持続するよう進めます。

スケジュール

